

## 「新日本石油 社会環境報告書2004」の発行について

記者各位

当社は、この度、2003年度における当社ならびにグループ主要16社の環境保全や社会貢献への取り組みなどをまとめた「新日本石油 社会環境報告書2004」を発行いたしましたのでお知らせします。

名称を「環境報告書」から「社会環境報告書」へ変更してから2回目の発行となる本報告書においては、持続可能性に関わる3つの側面、すなわち「環境への取り組み」、「社会的責任」、「経済性報告」について当社の事業活動をご理解いただけるよう掲載いたしました。

本報告書の特徴として、サステナブルな社会の創造とCSRに対する考え方を冒頭の社長対談に掲載し、当社の考え方を明確化しました。さらにCSRに関する取り組み、推進体制、および経営推進のためのステークホルダーとの関係についても掲載しております。

また当社は、「地球環境との調和」を尊重すべき行動規範のひとつに掲げており、サステナブルな社会の創造に向けて、2003年に「新日本石油 環境ビジョン」を策定いたしました。本報告書では、このビジョン実現のために、以下の事業内容を当社環境活動のハイライトとして掲載いたしております。

- (1) エネルギー供給の多様化
- (2) ベトナム・ランドン油田における随伴ガス回収プロジェクト
- (3) 環境対応ハイオクガソリン ENEOSヴィーゴ
- (4) ガソリンの低ベンゼン化・軽油の低硫黄化
- (5) 燃料電池の研究開発

当社は、これからも総合エネルギー企業として、環境保全等に関する具体的活動を実施するとともに、今後もわかりやすい報告書の制作に努め、環境に関する情報開示・説明責任を果たしてまいります。

以上

資料 「新日本石油 社会環境報告書2004」のポイント

### 1. CSRに対する取り組み

#### (1) 社長対談(3～5ページ)

- サステナブルな社会の創造とCSRに対する考え方
- ・「コンプライアンス、品質向上、環境、人間尊重に徹底的に取り組むこと」を掲載

#### (2) 推進体制

- CSR経営の強化
- ・CSRの推進体制図を掲載
- ・環境マネジメント体制(19、20ページ)、コンプライアンスへの取り組み(44ページ)、品質への取り組み(46ページ)、人権啓発の取り組み(52ページ)を掲載

#### (3) ステークホルダーとの関わり

- ステークホルダーへの事業活動「付加価値額」の配分(18ページ)
- ・付加価値の配分を従業員、配当、株主、内部留保に分けて掲載
- ステークホルダーからの意見(55～56ページ)
- ・ステークホルダーを代表するNGO、有識者、消費者からの当社の事業、環境への取り組みなどに対する意見を掲載

### 2. 「新日本石油 環境ビジョン」実現化のための活動(8～14ページ)

ビジョン実現のための取り組みの一部をハイライトとして紹介

- 総合エネルギー企業としての取り組み
- ・原油供給元の多角化、電気事業拡大、マレーシア・サラワク沖の天然ガス商業生産開始
- 地球温暖化への取り組み
- ・ベトナム・ランドン油田における随伴ガス回収のCDM(クリーン開発メカニズム)申請・承認
- ・CDCF(世界銀行コミュニティ開発炭素基金)への参画

- ・風力発電営業運転開始
- 環境にやさしいエネルギー
- ・環境対応ハイオクガソリン「ENEOSヴィーゴ」の普及
- ・レギュラーガソリン、軽油のサルファーフリー化
- 新エネルギー技術の開発
- ・石油系燃料を利用する燃料電池システムの商品化推進